



2022年度賃上げ交渉「妥結」!

定期昇給の実施『昇給係数4』

会社回答

- 1 令和4年4月1日現在、満55歳未満の社員
定期昇給を実施し、その際の昇給係数は4とする。
- 2 前項の清算については、令和4年6月24日(金)以降、準備でき次第とする。

・対象社員数：47,600人 ・平均年齢：38.8歳 ・平均勤続年数：15.6年

・平均基準内賃金：331,020円(内訳)基本給290,397円 管理手当等12,232円 都市手当22,551円 扶養手当5,840円

定期昇給による基準内賃金の1人当たり平均増加額：6,311円(1.97%)

3月17日令和4年度新賃金が会社から回答されました。

冒頭、会社側から「昨日の地震に触れ、現場で努力する社員に感謝する」「安心して働いてもらうために回答を延期とせず本日の回答とする」と述べられました。別紙回答書が読み上げられ質疑応答に入り、組合側から、「新型コロナウイルス感染症から2年経ち昨年は係数2であったが、定期昇給4係数の支給に社員は安堵するだろう」「しかし要求していたベアが示されずに残念だ。物価上昇を考えればベアの提示があっても良いと言う気持ちである」「回答指定日前に回答をもらった」「回答書の中では雇用のことについて触れられてなかったが、会社との信頼関係を見れば雇用調整を行うとは考えられないと思っている」「労働組合として定期昇給係数4を主張しお互いに確認できたことは大きいと思う」と述べました。

会社側からは、「賃金引き上げは将来的にわたる生産性の向上の原資である。構造改革に伴い、社員が主役となり様々なことにチャレンジしていただく期待も込めたものである」「物価上昇分についても要素の一つとして総合的に勘案した結果の回答である」「雇用の安定については社長からの雇用の安定が優先との言葉もある。変革2027においても社員と家族の幸福の実現、会社の持続的発展を実現し雇用の安定を含めた労働条件の向上につなげていくことが大切である」との考えが示されました。

要求に届かなかったことで休憩をはさみ持ち回り中央執行委員会で確認を行ない、早期の回答、苦しい経営状況の中でも係数4が確保できたことを評価しました。「今後は55歳以上の労働条件改善を含めた交渉は継続していきたい」「これを契機に構造改革に向け社員がモチベーションを上げ、更なる増収、生産性向上に努めて行かなければならない。結果、夏季手当、年末手当につながっていく、これからが出発点だという気概で気持ちを引き締めて業務に邁進していきたい」として、2022年度新賃金について妥結しました。

「会社と共に」からJR東日本の未来づくりへ